

2021年4月30日発行

遠隔テレビ会議（ZOOM）による聖書研究会の開催



加納貞彦

新型コロナウイルス禍の中、私が参加している国立聖書研究会およびバイリンガル聖書研究会は、2020年4月以降、これまでほぼ一年間 ZOOM により開催されています。

私は学生時代に東京大学の駒場キャンパスで開かれていた柏蔭舎聖書研究会に出席し、西村秀夫先生、鈴木皇先生、杉山好先生から聖書を学びました。その後、杉山好先生の家庭集いに端を発する国立聖書研究会（会場：国立市公民館）に、コロナ禍の直前まで 50 年余にわたって参加していました。

ZOOM による開催にあたって、ご自分でパソコンを操作できない方たちに対して、その方たちの伴侶に、私がメールと電話で操作方法を数回かけて説明し、接続できるようになりました。その中には、これがきっかけとなり集會に参加するようになった方もおられ、奥様が喜んでおられます。

バイリンガル聖書研究会は、私が早稲田大学教授の時代、当時の早稲田大学に 4 千人ほどの外国人留学生がいたので、日本語と英語のバイリンガルで開いていたものです。定年退職後は会場を早稲田奉仕園に移しました。

ZOOM による集會開催の利点の第一は自宅から参加出来ることです。国立聖書研究会のメンバーの中には、健康上の理由で参加できなくなった方がおられましたが、ZOOM になって自宅から参加できるので喜んでおられます。利点の第二は遠隔地にて普段は参加できない方がインターネットを通して参加できるようになったことです。これはバイリンガル聖書研究会において顕著で、現在では 4 か国（日、米、加、印）在住の 22 名が参加しています。利点の第三は経済性です。両方の ZOOM の集會の主催者である私が支払うのは年間定額の 14,070 円です。これは主催者の私と妻の自宅から国立までの往復交通費（年間約 39,000 円）の半額以下です。両方の会とも、他の参加者は往復の交通費なしに参加できます。

一方、ZOOM による開催の欠点は、みんなで一堂に会し、讃美歌を合唱できないことです。しかし ZOOM の画面を通して笑顔を見ることも、会話を交わすこともできます。

印刷技術の進歩が聖書の普及に役立ったように、情報通信技術の進歩は ZOOM による遠隔テレビ会議を実現し、自宅から出られない人や遠隔地の人も一緒に聖書研究会を開くことに役立っています。これにより、み言葉の解き明かしが距離の壁を越えて共有できるようになりました。

（国立聖書研究会 早稲田大学名誉教授）

目 次

表紙・巻頭言

目次・内村鑑三の言葉	学校・学寮便り……………6
表紙について・発行趣旨……………2	各地からの報告……………9
移転事業と募金について……………3	定期集会・地域別特別集会等……………12
追悼 高橋喜久江……………4	事務局便り……………15
山下次郎先生を偲んで……………5	維持会員募集のお知らせ・編集後記……………16

内村鑑三の言葉

余の旧き聖書より

余に旧（ふる）き聖書がある。英訳聖書である。（中略）彼は余の半生の伴（とも）である。彼の表紙は破れ、ページは脱し、今は見すばらしき古本である。しかし彼は余の貴重品の一つである。（中略）彼は余の戦いしすべての戦闘に参加した。彼によって余は幾たびか悪魔を追い斥けた。彼によって余は幾たびか熱き火の中を通った。（中略）余の短き生涯は、彼なしには説明し得べからざるものである。余を感化せしものにして彼のごときはない。（中略）彼なくして余の事業はない。

『聖書之研究』1906年1月、『内村鑑三信仰著作全集』11巻、教文館、1965年

（選：NPO 法人今井館教友会相談役 大山綱夫）

○表紙について

今号の巻頭言は、コロナウィルス禍にあつて、どうしたら対面に代わる人と人との繋がりが保てるのか模索する中、1大ブームになっている ZOOM 会議について、加納貞彦さんが進取の気性に富んだ体験談を綴って下さった。この IT 技術の恩恵によって、聖書集会にもボーダーレスな繋がりの可能性が広がられている。また、多くのメリットにもかかわらず、ZOOM 集会では讚美歌が共に歌えないという。これも、いずれは解決され得る課題ではないかと想像する。写真は、バイリンガル聖書研究会（左）と国立聖書研究会、に参加されている方々。（C.Y.）

『今井館ニュース』発行趣旨

NPO 法人今井館教友会は、キリスト教の精神に基づいて、今井館を維持・管理・運営し、内村鑑三（無教会の提唱者）及び彼につらなる者たちの広範かつ多面的な思想と活動を自ら調査・研究するとともに、他の個人と団体による調査・研究をも奨励・支援し、それら自他の調査・研究成果の社会一般への普及に努めて、正義と隣人愛を基調とする平和的な社会の形成と発展に寄与することを目的とする（定款第3条）。その目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として今井館ニュース発行を通じ「内村鑑三及び彼に連なる人々の思想と活動を調査・研究・発表する事業」を行うものとする（定款第5条3項）。